

第2回学校運営協議会の報告

- 1 日時 令和5年9月22日(水) 17:30~18:30
- 2 会場 上越市立高士小学校 PC ルーム
- 3 参加者 委員11名のうち、4名欠席、7名参加
- 4 内容 (1) (2) 開会のあいさつ: 会長・校長

- ・本年度2回目のCSである。学校評価や報告から1学期を振り返り、教育活動の進捗状況を見ながら、よりよい方向へいくように委員の皆様からもご意見を頂戴したい。
- ・今年は酷暑が続いている。熱中症を含む「子どもの命にかかわる活動」については慎重に判断して実施していく。高士まつりや稲刈り、葡萄販売など、子どもにとっては魅力的な行事や活動は、地域の方の支えがあってこそ、成し遂げられているものである。感謝しながら、教育活動の充実に生かしていきたい。

(3) 協議

①学校評価中間報告と2学期以降の方策について…前期学校評価を基に各WT担当が説明

Q 運動が苦手と感じている子どもへの支援の具体は、どのようなものか。

→個別支援を中心として技能の向上を図ったり、子どもと話し合っテルールや作戦を工夫したりして、一人一人が楽しむことのできるよう工夫している。

- ・子どもがスポーツ離れの傾向がある。子どもがスポーツを楽しんで取り組めるよう工夫してほしい。

Q (職員から) 子どもが読書に親しむ工夫について、取組のご紹介やご助言をいただきたい。

→保育園では、毎週金曜日に本の貸し出しをしている。子ども自身が本を読むことはもちろん大事にしている。加えて、親子で一緒に本を読むことを通して、親子のふれあい、コミュニケーションの1つとしてほしいと願い、取り組んでいる。

②善兵衛学習・全国学力・学習状況調査の結果について

- ・今年度の葡萄販売は、直江津地区で行った。販売場所の協力もあり、「川上善兵衛生誕の地」の垂れ幕を掲げることができた。お客さんの反応から、内容や垂れ幕など、新鮮であったようだ。
- ・葡萄販売活動では、販売する場所や方法が、子どもと話し合っテ、その年によって変わっているようである。複式学級だからこそ、昨年度と異なる場所・方法を体験することができ、子どもも喜んでいた。
- ・学習面については、小規模校のよさを生かしながら、個別支援を大切にしながら進めてほしい。

③今後の学校行事・学習活動について

- ・150周年記念講演会では、高士小学校出身のJリーガーから講演いただけることになり、子どもにとって最高の思い出となることと思われる。
- ・稲作活動では、地域の方のご支援をいただきながら体験できている。学校側は、それを忘れないようにしてほしい。また、ご支援いただける方の負担にならないように配慮・工夫していただきたい。

→豊かな体験が子どもの表現への意欲、表現力の向上につながっている。地域の方のお力添えがあっテこそその教育活動の充実であると再確認し、今後も取組を工夫していきたい。

(4) その他

Q タブレットの持ち帰りが進んでいるようだが、学習面・学力との関係は?

→今年度、複式対応のソフトが市から導入された。それを活用しながら、個別に進めたり、学習内容の習熟を図ったりしている。今後も活用し、学力向上につなげていきたい。

- ・家庭で子どもの様子を見てみると、プログラミングソフトを活用している様子はいかがえる。そのほかの学習に活用している姿は、あまり見られない。

→学校でも活用できるよう、授業の工夫、取組の工夫をしていきたい。

Q タブレットの使用が増えると、視力に影響があるのではないか。

→「ブルーライト」が睡眠に影響があるといわれている。また、「ゲーム脳」という言葉があるように、依存性が高まることも考えられる。使用について、自分で判断し、意思決定できる力を育てていきたい。

5 閉会のあいさつ (CS 副会長)

- ・今後、大切な行事が控えている。みんなで協力して、よりよいものにしていきましょう。